

## 令和元年度「結婚等に関する県民意識調査」結果速報の概要

### 1. 調査の目的

県内在住の20代から30代の方を対象に結婚や出産についての率直な思いや意識を調査し、今後の県の結婚支援施策や少子化対策に役立てることを目的とする。

### 2. 調査の概要

- (1)調査対象 県内在住の20代から30代の男女 2,000人
- (2)調査期間 令和元年6月21日～7月5日
- (3)調査方法 郵送返送方式、Webによる調査
- (4)調査機関 一般財団法人 北陸経済研究所
- (5)回収状況 標本数 2,000人  
回収数 669人  
回収率 33.5%

### 3. 調査項目

- (1)結婚の価値観・時期
- (2)結婚の条件
- (3)出会いの環境
- (4)現在結婚していない理由
- (5)異性交際・結婚生活への不安
- (6)未婚化・晩婚化の原因
- (7)結婚支援への考え・要望
- (8)結婚と仕事
- (9)子どもの人数
- (10)第一子誕生の時期
- (11)出産後の住まい
- (12)国や自治体の少子化対策
- (13)少子化対策への考え・要望

---

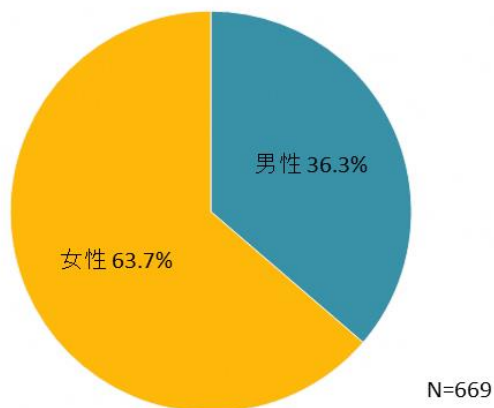
※比較に使用した前回調査は、平成29年度「結婚等に関する県民意識調査」である。

※比率はすべて百分率で表示し、小数第2位を四捨五入して算出しているため、個々の比率の合計と全体を示す数値とは一致しない場合がある。

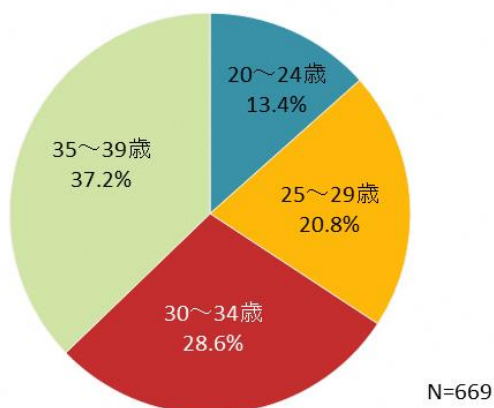
※図表中のNは各質問に対する回答者数で、比率算出の基数である。

#### 4. 回答者の概要

##### 【性別】



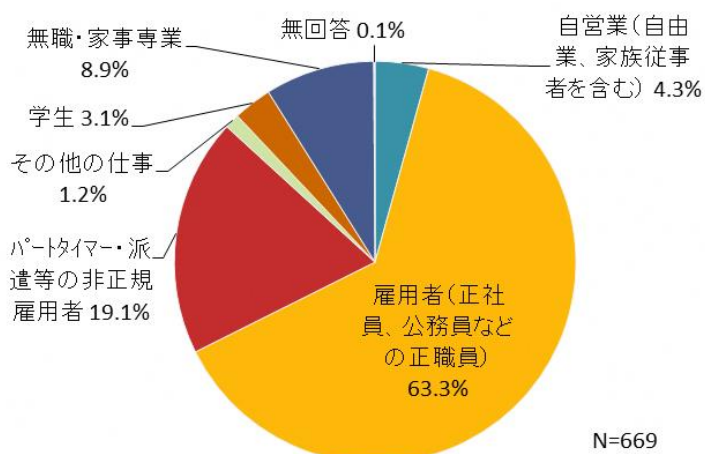
##### 【年齢】



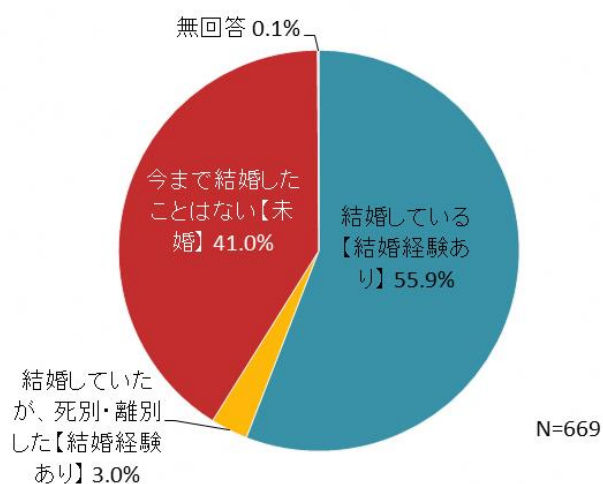
##### 【居住地】

居住地	回答者数	構成比 (%)
富山市(旧富山市)	233	34.8
富山市(旧大沢野町、旧大山町、旧八尾町、旧婦中町、旧山田村、旧細入村)	64	9.6
高岡市	90	13.5
魚津市	22	3.3
氷見市	24	3.6
滑川市	22	3.3
黒部市	29	4.3
砺波市	31	4.6
小矢部市	16	2.4
南砺市	29	4.3
射水市	66	9.9
舟橋村	4	0.6
上市町	9	1.3
立山町	11	1.6
入善町	13	1.9
朝日町	6	0.9

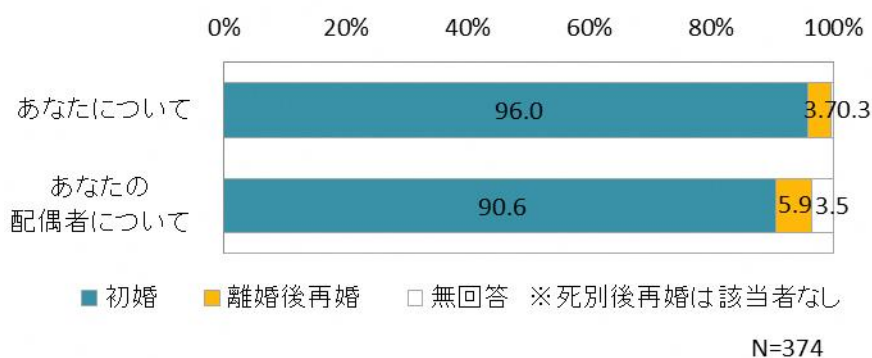
##### 【職業】



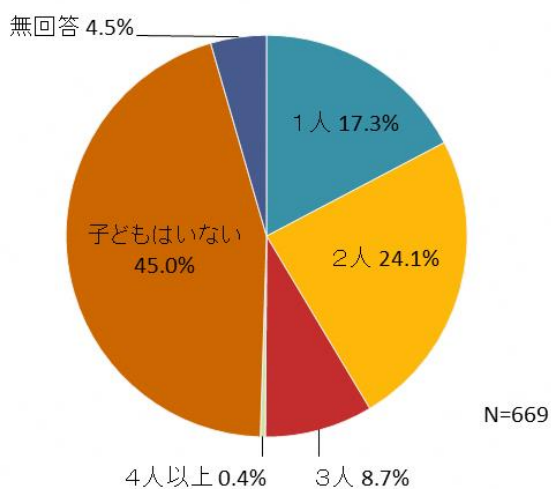
【結婚の状況】



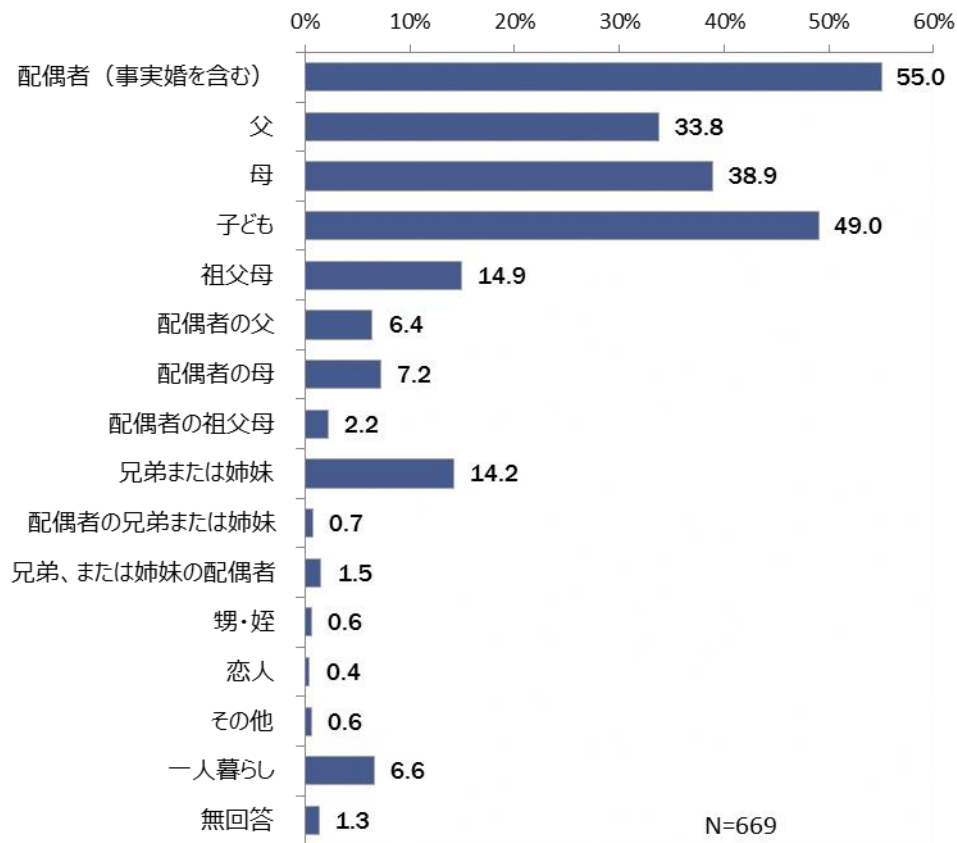
【初再婚の別（「結婚している」人について）】



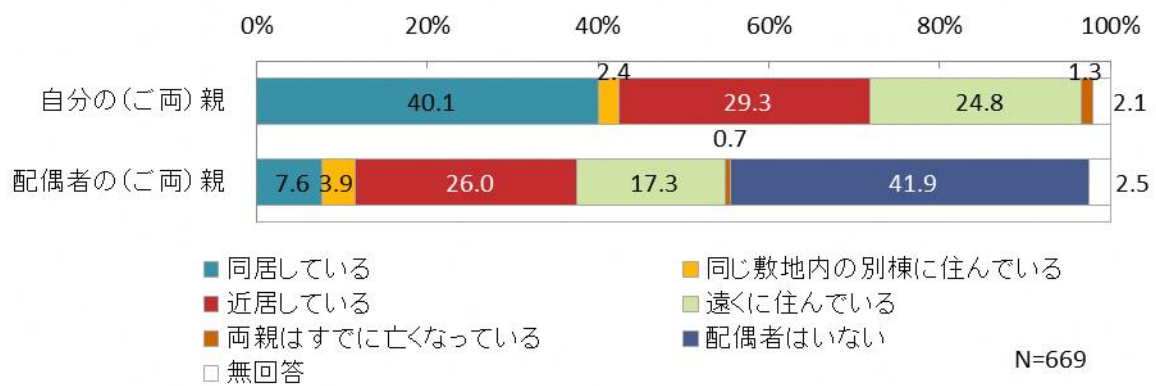
【子どもの数】



【同居者】



【親との距離】



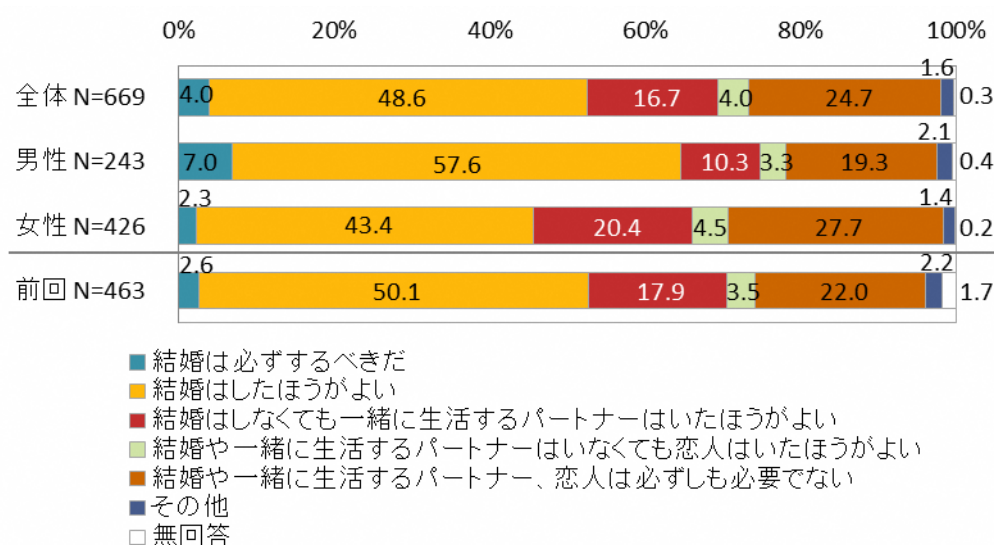
## 5. 調査結果の分析

### 問1 結婚についてのあなたの考え

全体では、「結婚はしたほうがよい」が48.6%と最も高く、次いで「結婚や一緒に生活するパートナー、恋人は必ずしも必要でない」が24.7%となっている。

性別でみると、「結婚は必ずすべきだ」、「結婚はしたほうがよい」と結婚に対して前向きな回答は男性で64.6%、女性で45.7%と男女間での結婚についての考え方に差がみられる。

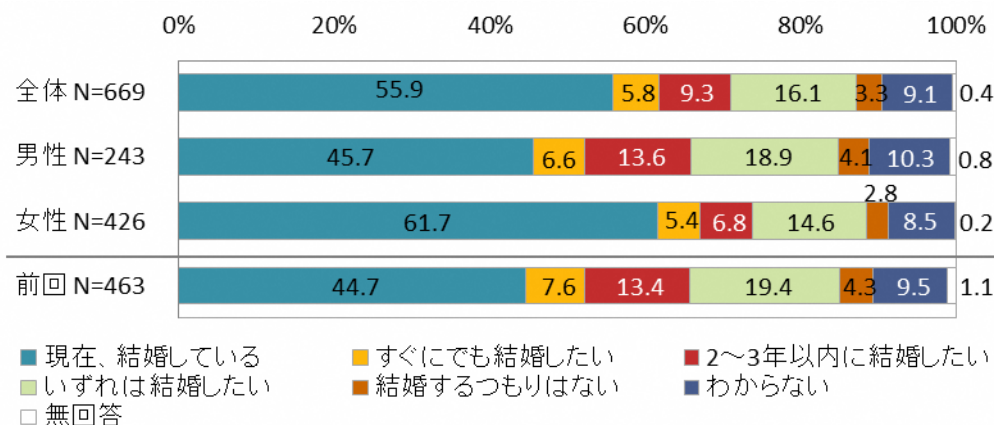
前回調査と比較すると、前回5割を超えた「結婚はしたほうがよい」が今回は5割を切ったが、「結婚は必ずすべきだ」が2.6%から4.0%に増えており、結婚に前向きな「結婚は必ずすべきだ」、「結婚はしたほうがよい」を合わせると前回は52.7%、今回は52.6%と、ほぼ変わらない。



### 問2-1 ご自身の結婚の時期について

全体では、「現在、結婚している」が55.9%と最も高く、次いで「いずれは結婚したい」が16.1%となっている。

性別での違いをみると、男性は「現在、結婚している」が45.7%に対し、女性は61.7%となっている。また、「すぐにでも結婚したい」、「2～3年以内に結婚したい」と3年以内に結婚したい人の割合では、男性が20.2%に対し女性が12.2%となっている。



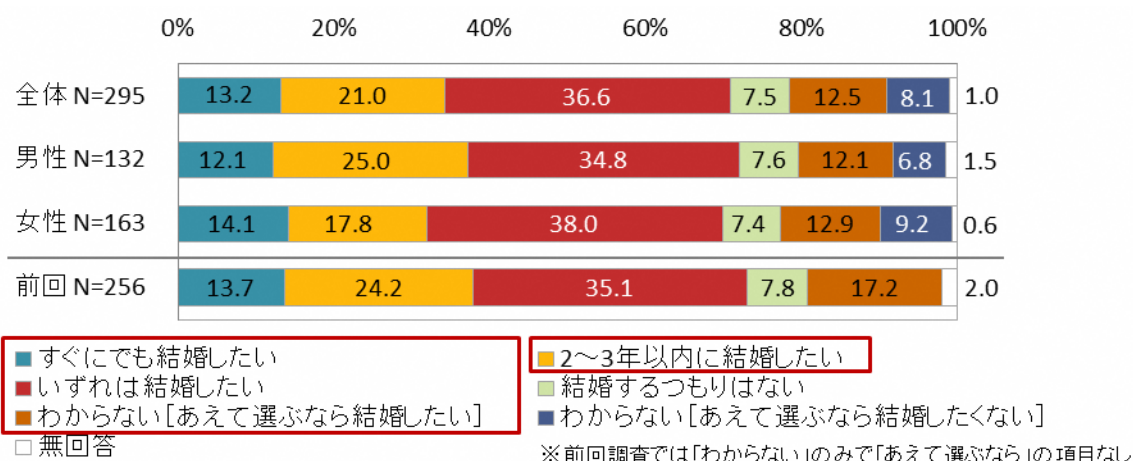
【ご自身の結婚の時期についてあえて選ぶなら（問2-1で「6. わからない」を選んだ人）】

結婚の時期について「わからない」と回答した人も約6割は「あえて選ぶなら結婚したい」と考えている。

	(%)	
	結婚したい	結婚したくない
全体 N=61	60.7	39.3
男性 N=25	64.0	36.0
女性 N=36	58.3	41.7

【結婚していない人のご自身の結婚の時期について】

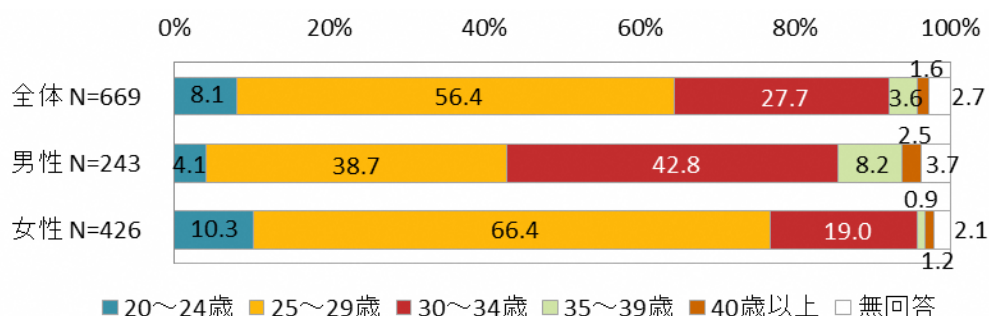
問2-1で「現在、結婚している」を選んだ人を除いた結婚していない人を対象に、さらに「わからない」の回答については「あえて選ぶなら結婚したい／結婚したくない」で細分化してみると、時期を特定しなければ、83.3%は「結婚したい」（赤枠で表示した選択肢）と回答している。



問2-2 あなたにとっての理想の結婚年齢

全体では「25～29歳」が56.4%と最も高く、次いで「30～34歳」が27.7%となっている。また、「20代（20～29歳）」との回答は6割を超えている。

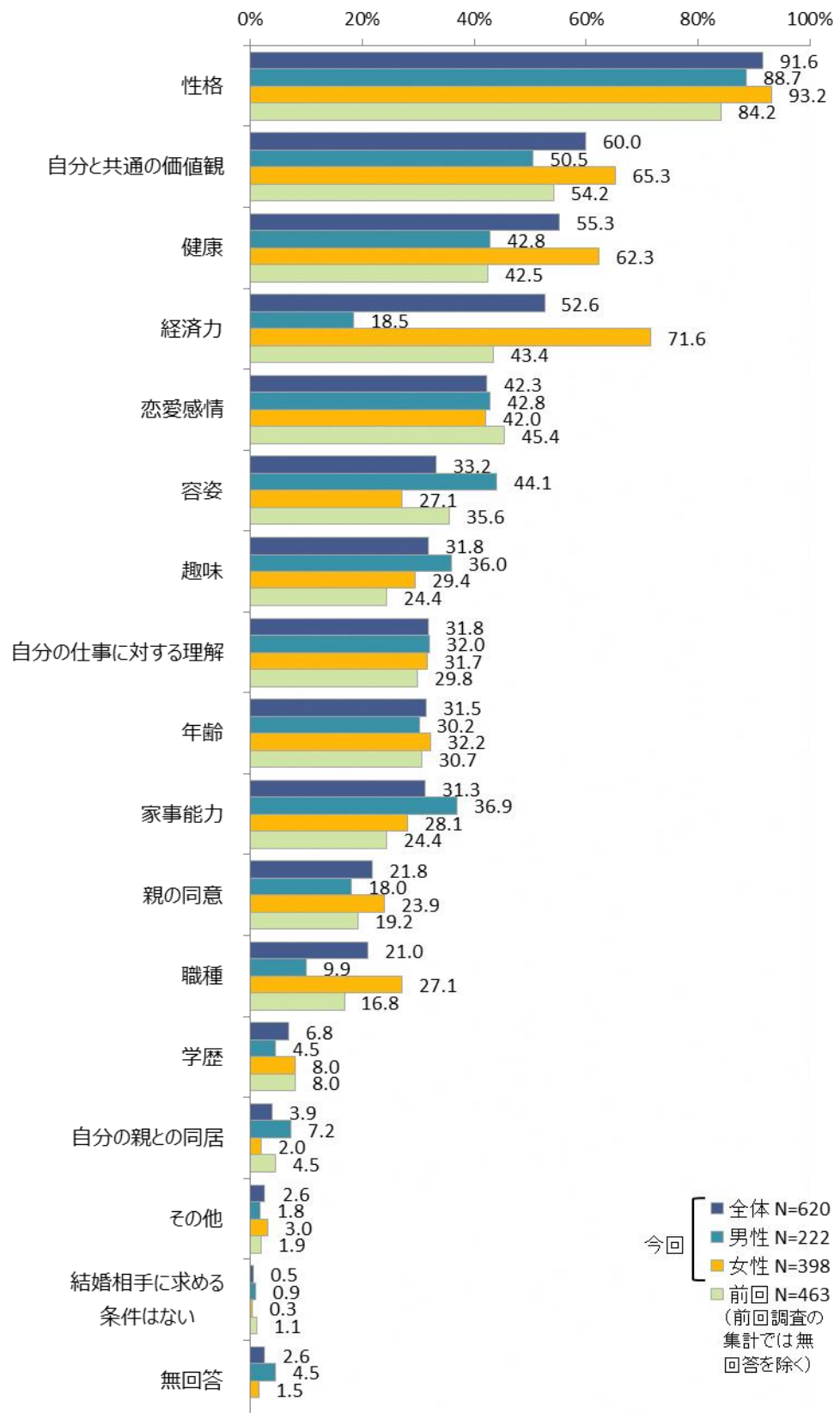
性別で見ると、男性は「20代」が42.8%、「30代」が51.0%に対し、女性では「20代」が76.7%、「30代」が19.9%となっており、男女間で理想の結婚年齢に差がみられる。



問3 結婚相手に求める条件（すでに結婚している人、将来結婚したい人：複数回答）

全体では「性格」が91.6%と最も高く、次いで「自分と共通の価値観」(60.0%)、「健康」(55.3%)となっている。

性別でみると、男性は「性格」(88.7%)、「自分と共通の価値観」(50.5%)、「容姿」(44.1%)の順となっているのに対し、女性は「性格」(93.2%)、「経済力」(71.6%)、「自分と共通の価値観」(65.3%)となっている。男女間の差が最も大きいのは「経済力」で、回答の割合は女性が男性より53.1ポイント高くなっている。

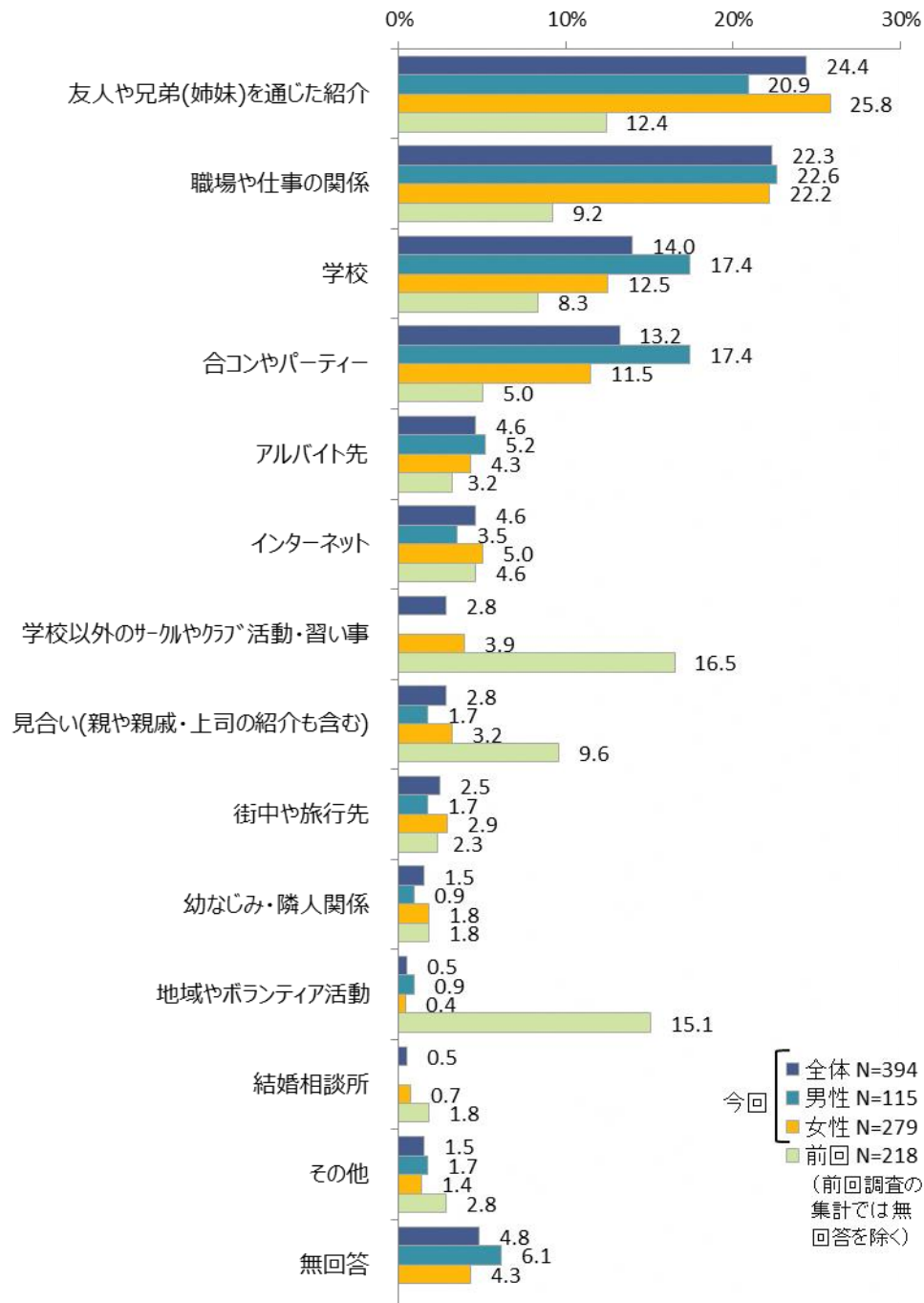




#### 問4 配偶者と知り合ったきっかけ（結婚経験ありの人：複数回答）

全体では、「友人や兄弟（姉妹）を通じた紹介」が 24.4%と最も高く、次いで「職場や仕事の関係」22.3%、「学校」14.0%となっている。

性別でみると、男性は「職場や仕事の関係」（22.6%）が最も高く、女性は「友人や兄弟（姉妹）を通じた紹介」（25.8%）が最も高くなっている。





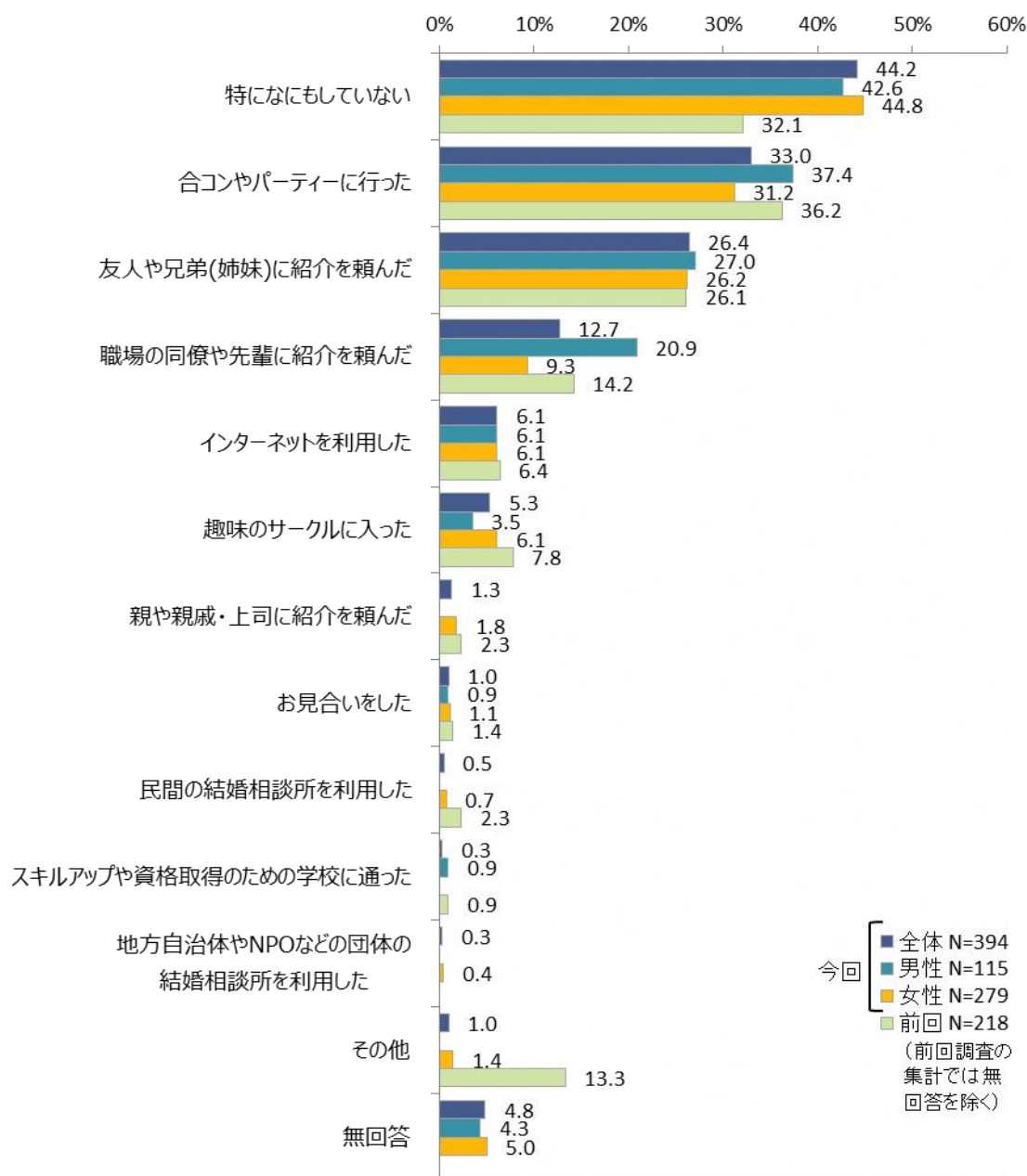
## 問5 配偶者と交際を始める前、交際相手に会うことを期待して行っていたこと

(結婚経験ありの人：複数回答)

全体では、「特に何もしていない」が44.2%と最も高く、次いで「合コンやパーティーに行った」が33.0%、「友人や兄弟（姉妹）に紹介を頼んだ」が26.4%となっている。

性別の違いをみると、男女間の差が大きかったのは「職場の同僚や先輩に紹介を頼んだ」で、男性の20.9%に対し、女性は9.3%となっている。

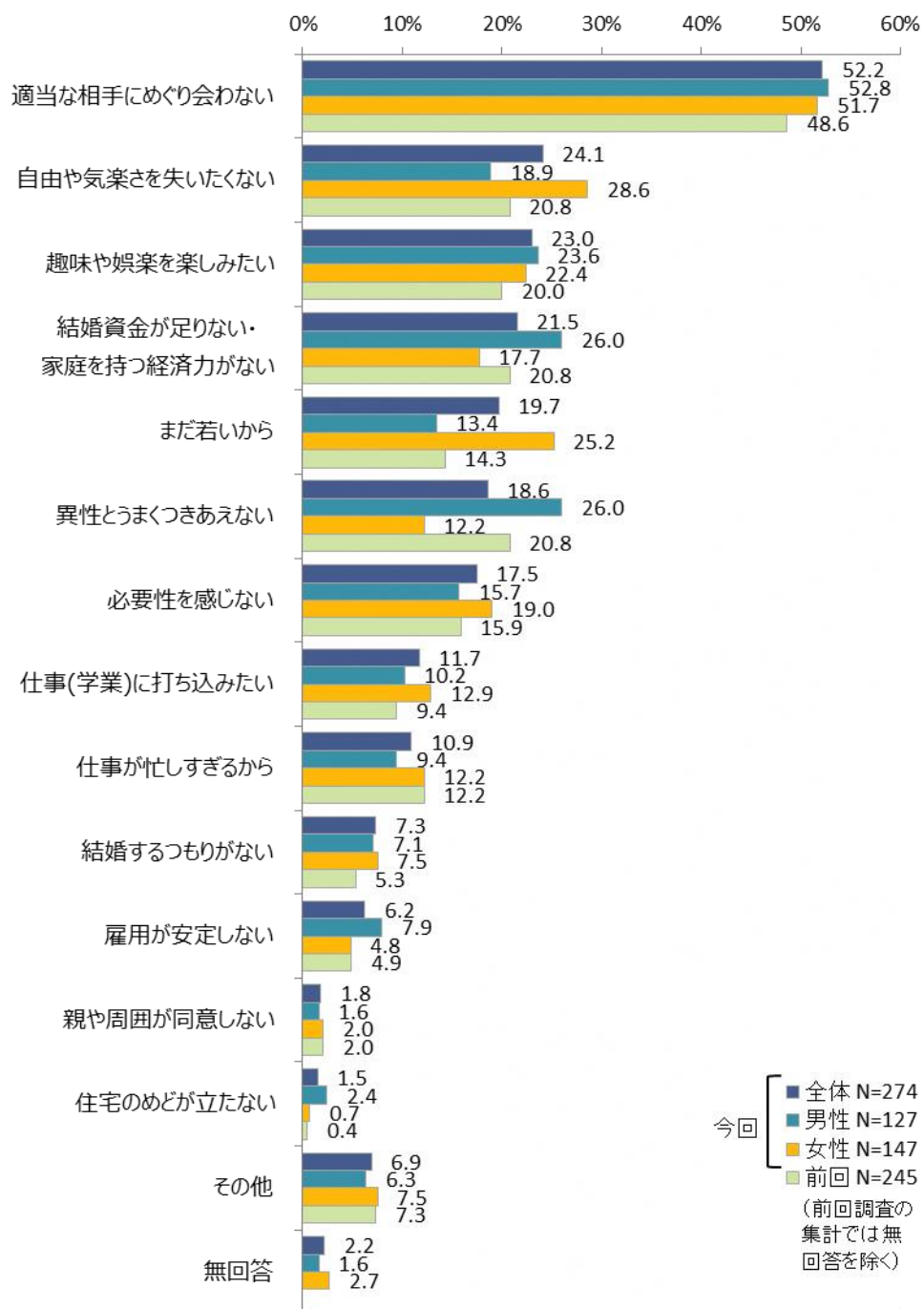
前回調査で最も高かった「合コンやパーティーに行った」(36.2%)と、次点の「特に何もしていない」(32.1%)が今回調査では順位が逆転している。



問6-1 現在結婚していない理由（未婚の人：複数回答3つまで）

全体では「適当な相手にめぐり合わない」が52.2%と最も高くなっており、男女ともに次点以下と大きく差がある。

性別で次点以下をみると、男性は「結婚資金が足りない・家庭を持つ経済力がない」と「異性とうまくつきあえない」が26.0%と高く、女性は「自由さや気楽さを失いたくない」の28.6%、「まだ若いから」の25.2%が高くなっている。

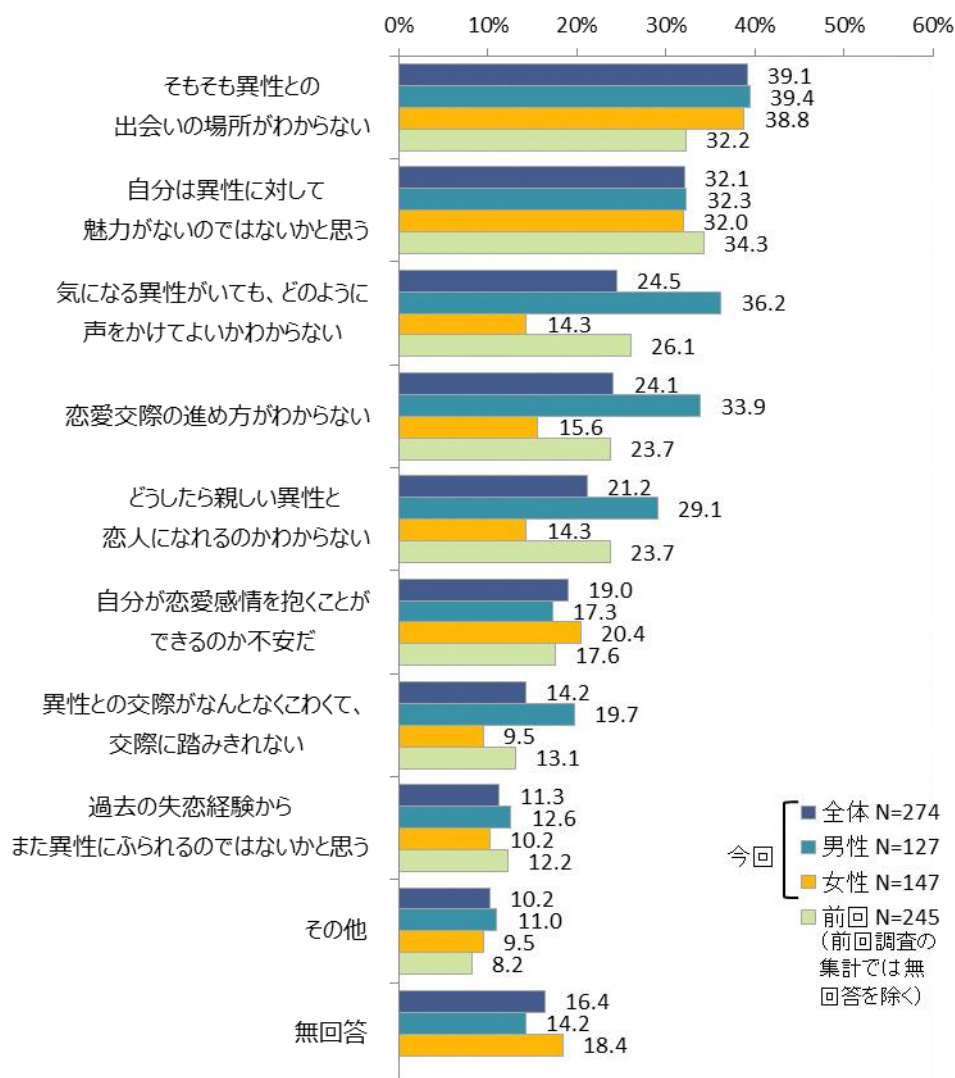


問7 異性と交際する上での不安はありますか。異性と交際する上での不安（未婚の人：複数回答）

全体では、「そもそも異性との出会いの場所がわからない」が39.1%と最も高く、次いで「自分は異性に対して魅力がないのではないかと思う」が32.1%、「気になる異性がいても、どのように声をかけてよいかわからない」が24.5%となっている。

性別での違いがみられる項目は、「気になる異性がいても、どのように声をかけてよいかわからない」（男性：36.2%、女性：14.3%）、「恋愛交際の進め方がわからない」（男性：33.9%、女性：15.6%）、「どうしたら親しい異性と恋人になれるかわからない」（男性：29.1%、女性：14.3%）で、女性に比べ男性の割合が倍以上となっている。

前回調査で最も高かった「自分は異性に対して魅力がないのではないかと思う」（34.3%）と、次点の「そもそも異性との出会いの場所がわからない」（32.2%）が今回調査では順位が逆転している。

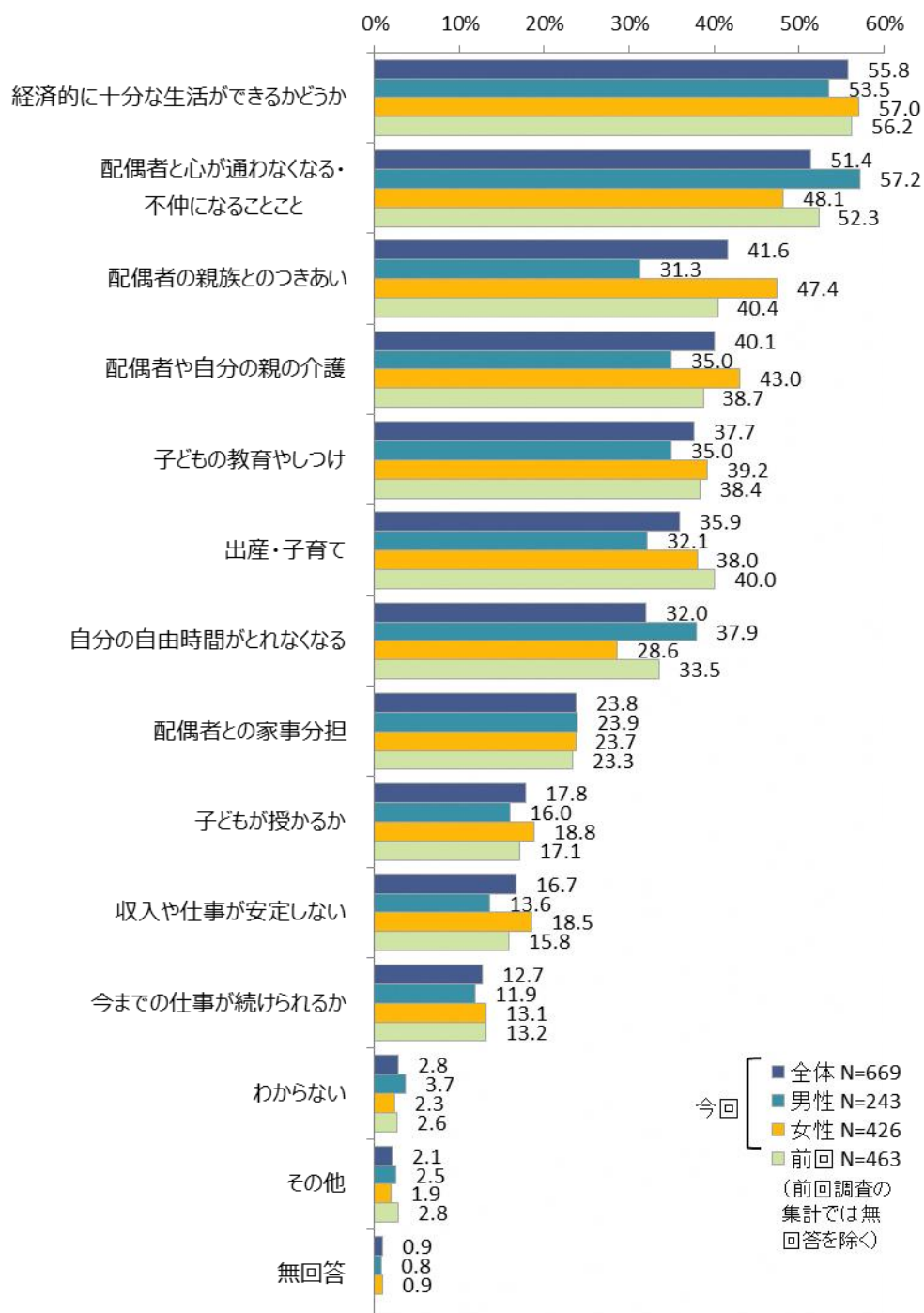


## 問8 結婚生活を送っていく上で不安に思っていること（思ったこと）

（未婚の人は結婚すると仮定：複数回答）

全体では、「経済的に十分な生活ができるかどうか」が55.8%と最も高く、次いで「配偶者と心が通わなくなる・不仲になること」が51.4%、「配偶者の親族とのつきあい」が41.6%となっている。

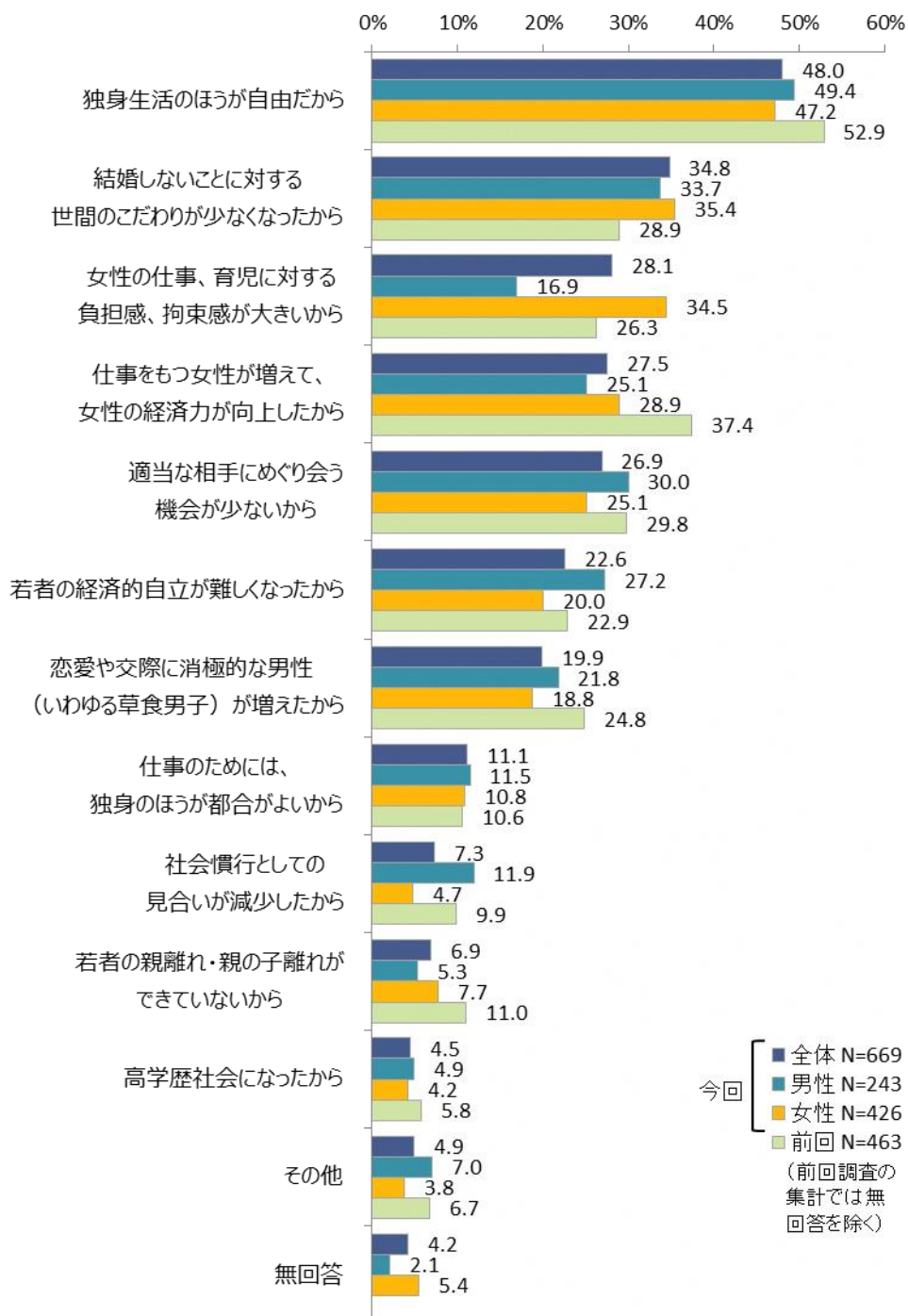
性別での違いをみると、男性は「配偶者と心が通わなくなる・不仲になること」が57.2%に対し、女性は48.1%となっている。「配偶者の親族とのつきあい」（男性：31.3%、女性：47.4%）、「配偶者や自分の親の介護」（男性：35.0%、女性：43.0%）、「出産・子育て」（男性：32.1%、女性：38.0%）の項目でも男女間で不安に思うことに差がみられる。



## 問9 未婚化、晩婚化の理由について（複数回答：3つまで）

全体では、「独身生活のほうが自由だから」が48.0%と最も高く、次いで「結婚しないことに対する世間のこだわりが少なくなったから」が34.8%、「女性の仕事、育児に対する負担感、拘束感が大きいから」が28.1%となっている。

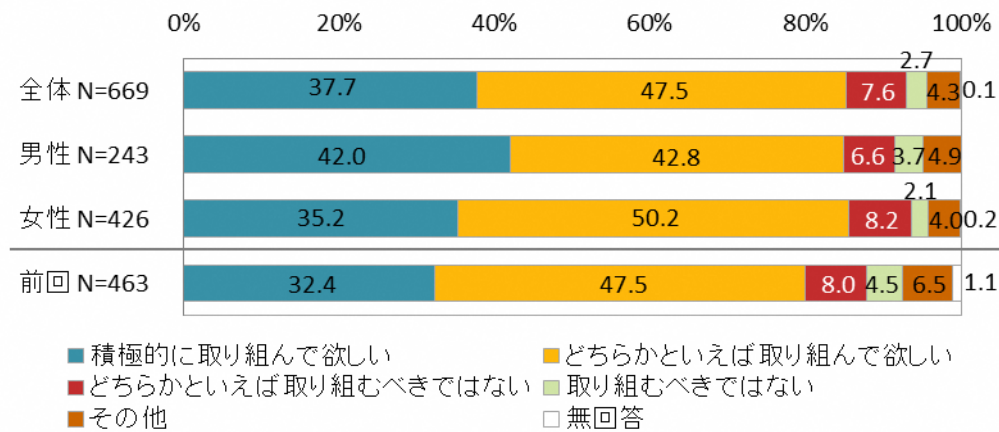
性別での違いをみると、最も差が大きいのは「女性の仕事、育児に対する負担感、拘束感が大きいから」の女性34.5%に対し、男性16.9%である。そのほか、「若者の経済的自立が難しくなったから」（男性：27.2%、女性：20.0%）でも男女間での差がみられる。



問 10 結婚を支援する施策（事業）を県や市町村が取り組むことについて

全体で見ると、「どちらかといえば取り組んで欲しい」が 47.5%と最も高く、次いで「積極的に取り組んで欲しい」が 37.7%となっており、取り組みを希望する回答は 85.2%となっている。

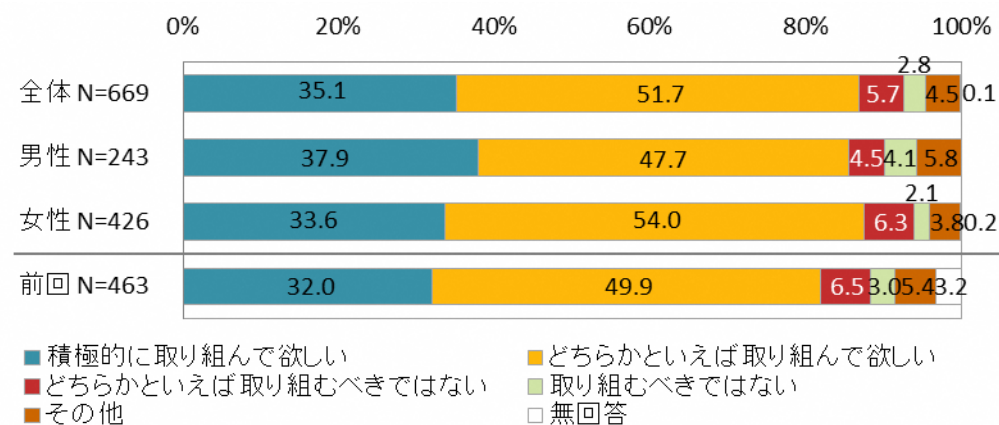
前回調査の取り組みを希望する回答は 79.9%であり、今回調査で取り組みを希望する割合は増加している。



問 11 結婚を支援する施策（事業）をNPOなどの民間団体や企業が取り組むことについて

全体で見ると、「どちらかといえば取り組んで欲しい」が 51.7%と最も高く、次いで「積極的に取り組んで欲しい」が 35.1%となっており、取り組みを希望する回答は 86.8%となっている。

前回調査の取り組みを希望する回答は 81.9%であり、今回調査で取り組みを希望する割合は増加している。





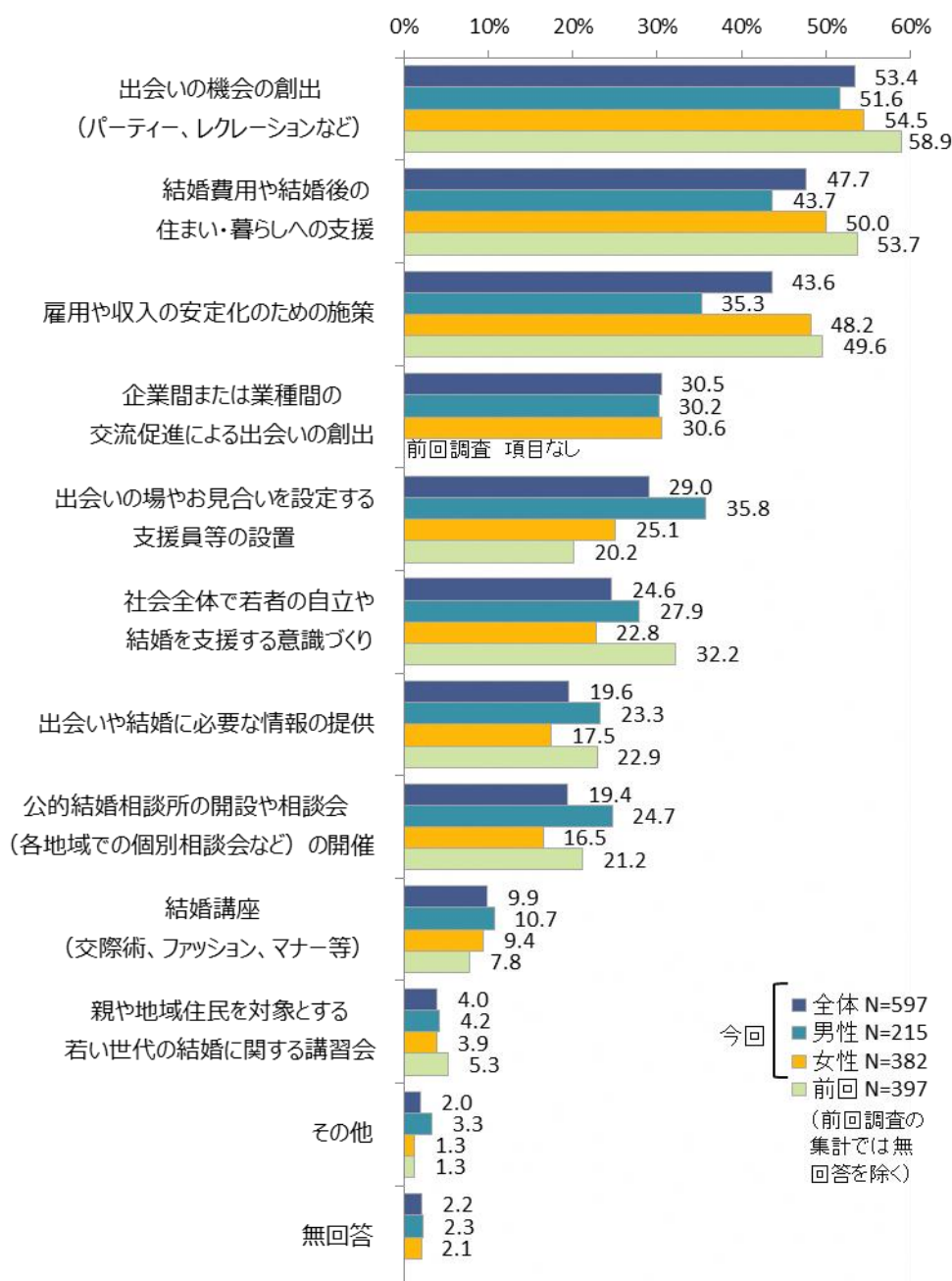
## 問 12 特に必要だと考える取り組み

(問 10 または問 11 で「1. 積極的に取り組んで欲しい」が「2. どちらかといえば取り組んで欲しい」を選んだ人：複数回答)

全体では「出会いの機会の創出」が 53.4%と最も高く、次いで「結婚費用や結婚後の住まい・暮らしへの支援」が 47.7%、「雇用や収入の安定化のための施策」が 43.6%となっている。

性別での違いをみると、男性は「出会いの場やお見合いを設定する支援員等の設置」が 35.8%に対し、女性は 25.1%となっている。女性は「結婚費用や結婚後の住まい・暮らしへの支援」(50.0%)、「雇用や収入の安定化のための施策」(48.2%) の経済面での取り組みへの希望が高くなっている。

前回調査と今回調査では、上位 3 位までの順位は変わっていない。



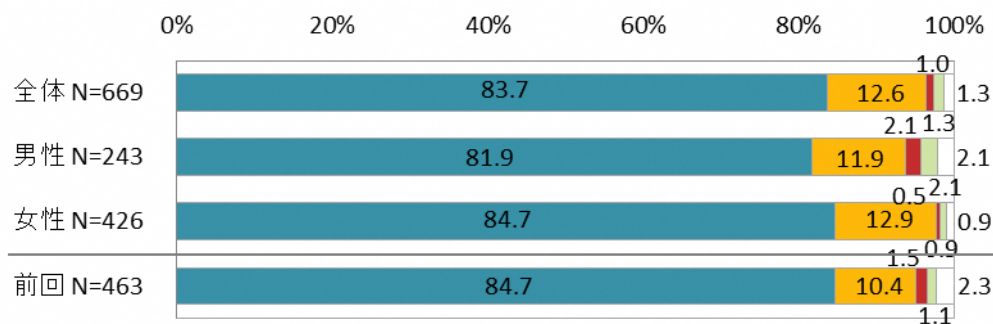


### 問 13 結婚した女性の生き方について

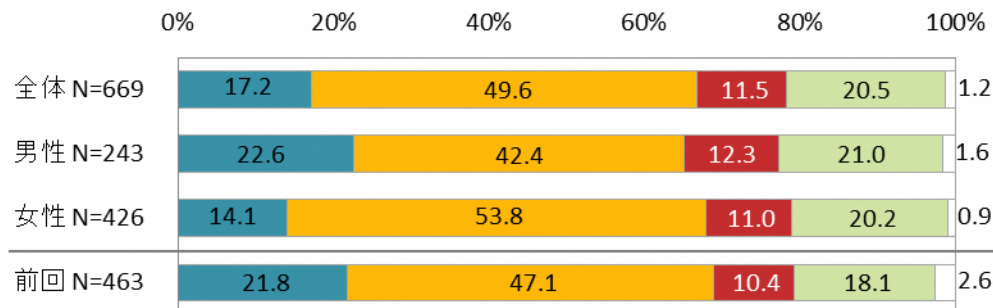
全体では、結婚して子どもがいない時の働き方としては「フルタイムの仕事」が83.7%と最も高いが、その後子どもが生まれると、子どもが小学校入学前では17.2%、子どもが小学生以前では41.9%となっている。また、子どもが小学校入学前では「短時間勤務制 パート・アルバイト」が49.6%、子どもが小学生以前でも「短時間勤務制 パート・アルバイト」が47.5%と最も高くなっている。

性別でみると、男女で大きな差はみられないが、男性が「フルタイムの仕事」とする割合がやや高くなっている。

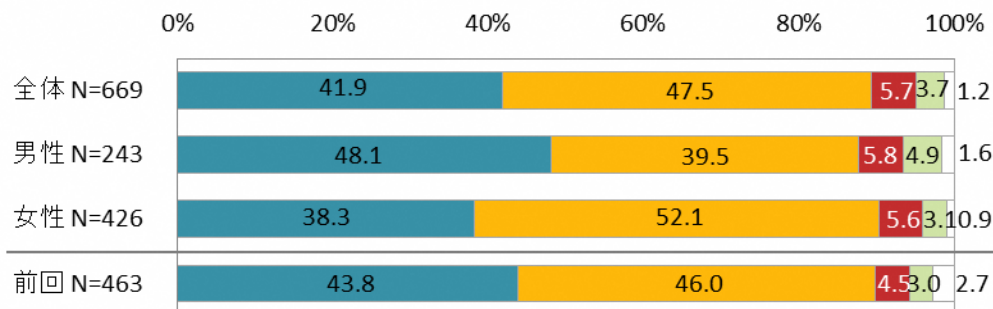
#### 【結婚して子どもがいない時】



#### 【子どもが小学校入学前】



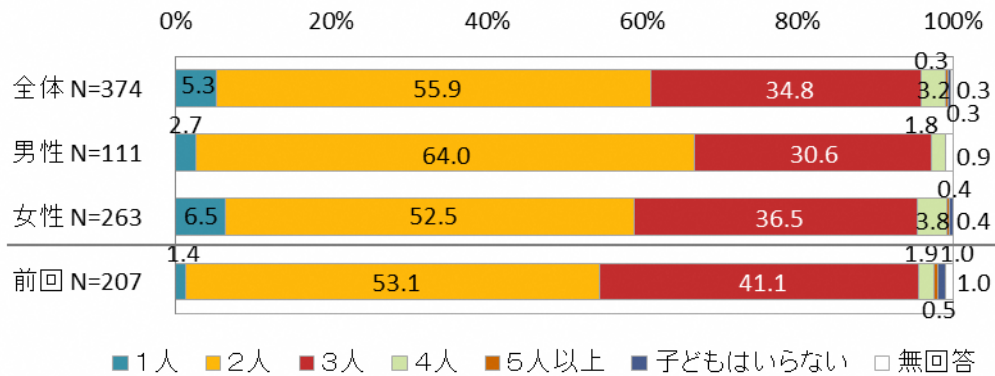
#### 【子どもが小学生以降】



- フルタイムの仕事
- 短時間勤務制 パート・アルバイト
- 家でできる仕事
- 仕事は持たず、家事・育児に専念する
- 無回答

問 14 理想的な子どもの数（結婚している人）

全体では「2人」が55.9%と最も高く、次いで「3人」34.8%となっている。  
性別で見ると、女性では「3人以上」と回答した割合が40.7%と高くなっている。

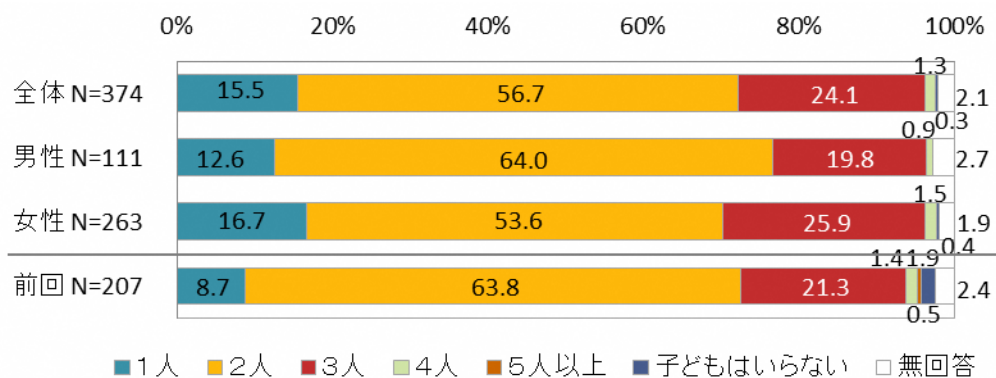


(上段：度数、下段：%)

		合計	1人	2人	3人	4人	5人以上	子どもはいらない	無回答
男性	20~39歳	106 100.0	2 1.9	68 64.2	33 31.1	2 1.9	-	-	1 0.9
	20~34歳	47 100.0	1 2.1	31 66.0	14 29.8	-	-	-	1 2.1
	20~24歳	1 100.0	1 100.0	-	-	-	-	-	-
	25~29歳	12 100.0	-	8 66.7	4 33.3	-	-	-	-
	30~34歳	34 100.0	-	23 67.6	10 29.4	-	-	-	1 2.9
	35~39歳	59 100.0	1 1.7	37 62.7	19 32.2	2 3.4	-	-	-
	不明	5 100.0	1 20.0	3 60.0	1 20.0	-	-	-	-
女性	20~39歳	262 100.0	16 6.1	138 52.7	96 36.6	10 3.8	1 0.4	1 0.4	-
	20~34歳	135 100.0	10 7.4	73 54.1	45 33.3	6 4.4	-	1 0.7	-
	20~24歳	5 100.0	-	3 60.0	1 20.0	1 20.0	-	-	-
	25~29歳	42 100.0	4 9.5	23 54.8	13 31.0	1 2.4	-	1 2.4	-
	30~34歳	88 100.0	6 6.8	47 53.4	31 35.2	4 4.5	-	-	-
	35~39歳	127 100.0	6 4.7	65 51.2	51 40.2	4 3.1	1 0.8	-	-
	不明	1 100.0	1 100.0	-	-	-	-	-	-

問 15 実際に持つつもりの子どもの数（結婚している人）

全体では「2人」が56.7%と最も高く、次いで「3人」24.1%となっている。

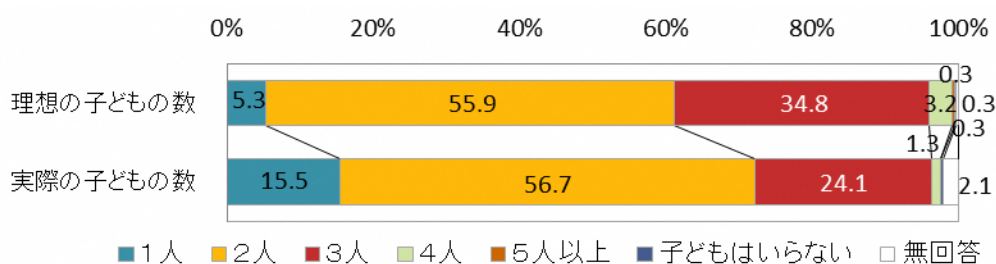


(上段：度数、下段：%)

		合計	1人	2人	3人	4人	5人以上	子どもはいらない	無回答
男性	20~39歳	106	13	68	21	1	-	-	3
		100.0	12.3	64.2	19.8	0.9	-	-	2.8
	20~34歳	47	7	30	9	-	-	-	1
		100.0	14.9	63.8	19.1	-	-	-	2.1
	20~24歳	1	1	-	-	-	-	-	-
		100.0	100.0	-	-	-	-	-	-
	25~29歳	12	1	8	3	-	-	-	-
	100.0	8.3	66.7	25.0	-	-	-	-	
女性	30~34歳	34	5	22	6	-	-	-	1
		100.0	14.7	64.7	17.6	-	-	-	2.9
	35~39歳	59	6	38	12	1	-	-	2
		100.0	10.2	64.4	20.3	1.7	-	-	3.4
	不明	5	1	3	1	-	-	-	-
		100.0	20.0	60.0	20.0	-	-	-	-
	20~39歳	262	44	140	68	4	-	1	5
	100.0	16.8	53.4	26.0	1.5	-	0.4	1.9	
20~34歳	135	23	78	30	3	-	-	1	
	100.0	17.0	57.8	22.2	2.2	-	-	0.7	
20~24歳	5	-	4	1	-	-	-	-	
	100.0	-	80.0	20.0	-	-	-	-	
25~29歳	42	9	23	10	-	-	-	-	
	100.0	21.4	54.8	23.8	-	-	-	-	
30~34歳	88	14	51	19	3	-	-	1	
	100.0	15.9	58.0	21.6	3.4	-	-	1.1	
35~39歳	127	21	62	38	1	-	1	4	
	100.0	16.5	48.8	29.9	0.8	-	0.8	3.1	
不明	1	-	1	-	-	-	-	-	
	100.0	-	100.0	-	-	-	-	-	

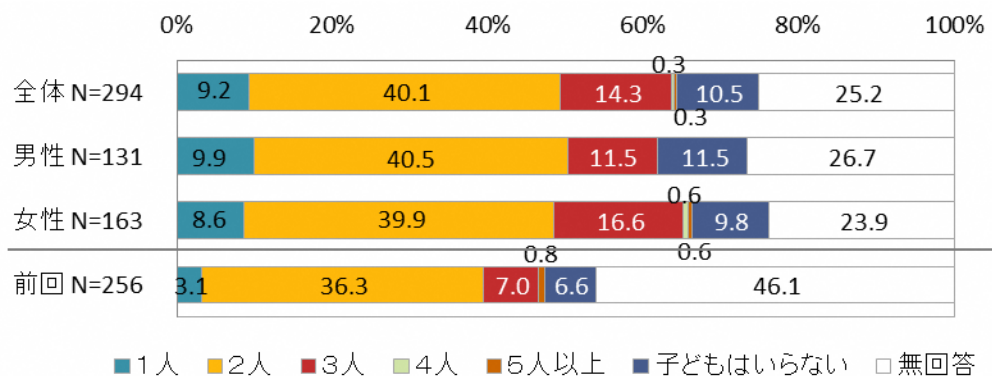
### 【理想の子どもの数と実際に持つつもりの子どもの数の比較（結婚している人）】

理想の子どもの数と実際に持つつもりの子どもの数を比較すると、全体的に実際の方が子どもの数が少なくなる傾向となっており、実際に持つつもりの子どもの数に「5人以上」と答える人はいなかった。また、子どもの数を「1人」と回答する割合が高くなっている。



問 16 ほしい子どもの数（死別・離別した人、または未婚の人）

全体では「2人」が40.1%と最も高く、次いで「3人」14.3%となっている。また、「子どもはいらない」との回答が10.5%と1割を超えている。



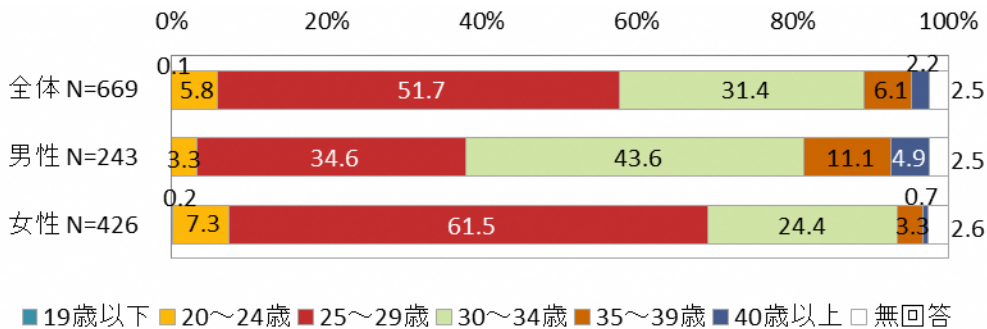
(上段：度数、下段：%)

		合計	1人	2人	3人	4人	5人以上	子どもは いない	無回答
男性	20~39歳	130	13	52	15	-	-	15	35
		100.0	10.0	40.0	11.5	-	-	11.5	26.9
	20~34歳	100	5	45	11	-	-	11	28
		100.0	5.0	45.0	11.0	-	-	11.0	28.0
	20~24歳	31	1	15	5	-	-	1	9
		100.0	3.2	48.4	16.1	-	-	3.2	29.0
	25~29歳	38	1	15	4	-	-	6	12
	100.0	2.6	39.5	10.5	-	-	15.8	31.6	
女性	30~34歳	31	3	15	2	-	-	4	7
		100.0	9.7	48.4	6.5	-	-	12.9	22.6
	35~39歳	30	8	7	4	-	-	4	7
		100.0	26.7	23.3	13.3	-	-	13.3	23.3
	不明	1	-	1	-	-	-	-	-
		100.0	-	100.0	-	-	-	-	-
	20~39歳	159	14	65	26	1	1	16	36
	100.0	8.8	40.9	16.4	0.6	0.6	10.1	22.6	
20~34歳	130	8	56	24	1	1	12	28	
	100.0	6.2	43.1	18.5	0.8	0.8	9.2	21.5	
20~24歳	51	1	23	12	-	1	3	11	
	100.0	2.0	45.1	23.5	-	2.0	5.9	21.6	
25~29歳	44	2	21	9	1	-	4	7	
	100.0	4.5	47.7	20.5	2.3	-	9.1	15.9	
30~34歳	35	5	12	3	-	-	5	10	
	100.0	14.3	34.3	8.6	-	-	14.3	28.6	
35~39歳	29	6	9	2	-	-	4	8	
	100.0	20.7	31.0	6.9	-	-	13.8	27.6	
不明	4	-	-	1	-	-	-	3	
	100.0	-	-	25.0	-	-	-	75.0	

## 問 17 子ども（第1子）を持ちたい理想的な年齢

全体では「25～29歳」が51.7%と最も高く、次いで「30～34歳」が31.4%となっている。

性別でみると、男性は「30～34歳」が43.6%と最も高く、女性は「25～29歳」が61.5%と最も高くなっている。特に「25～29歳」と回答した割合が男女間で差が大きく、女性の回答割合が男性より26.9ポイント高くなっている。

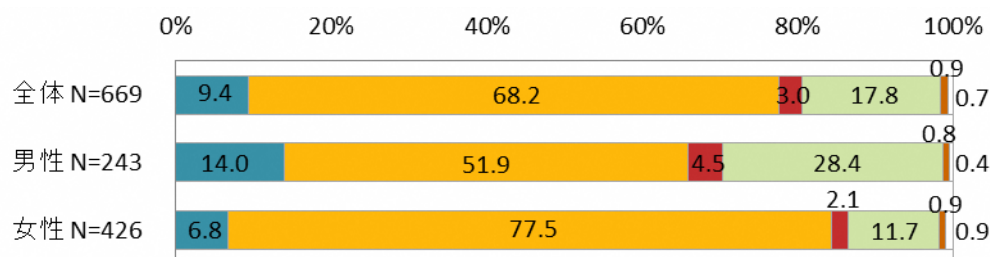


## 問 18 出産後のお住まいについて

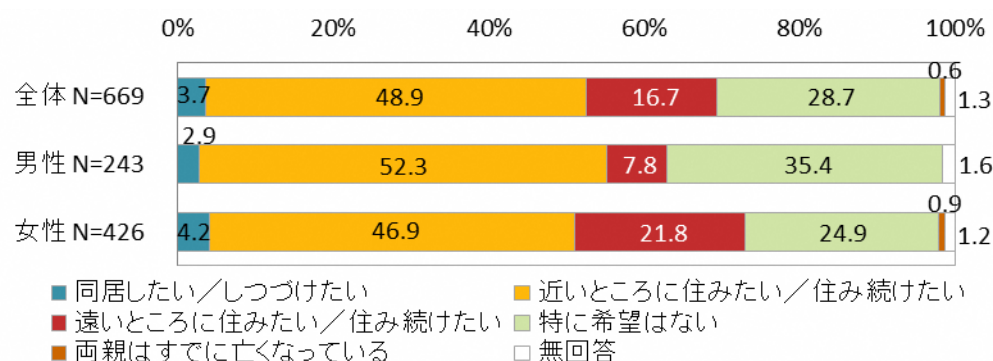
全体では、自身の親では「近いところに住みたい／住み続けたい」が68.2%と最も高く、次いで「特に希望はない」が17.8%となっている。配偶者の親でも「近いところに住みたい／住み続けたい」が48.9%と最も高いが、自身の親と比べると割合が低い。

性別での違いをみると、自身の親と「近いところに住みたい／住み続けたい」を選ぶ男性が51.9%に対し、女性が77.5%となっている。一方、配偶者の親とは「遠いところに住みたい／住み続けたい」を選ぶ男性が7.8%に対し、女性が21.8%となっており、考え方に差がみられる。

### 【ご自身の（ご両）親】



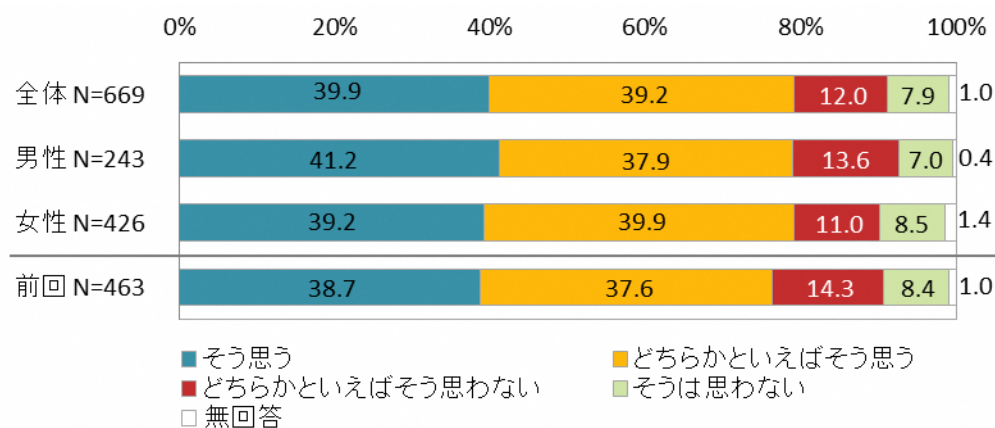
### 【配偶者の（ご両）親】



問 20 国や自治体の少子化対策拡充により、「子どもが欲しい」または「もう1人子どもが欲しい」という気持ちになるか

全体では、「そう思う」が 39.9%と最も高く、次いで「どちらかといえばそう思う」が 39.2%となっており、国や自治体の少子化対策拡充に肯定的な回答は 79.1%となっている。

前回調査で肯定的な回答は 76.3%であり、今回調査での割合は微増している。

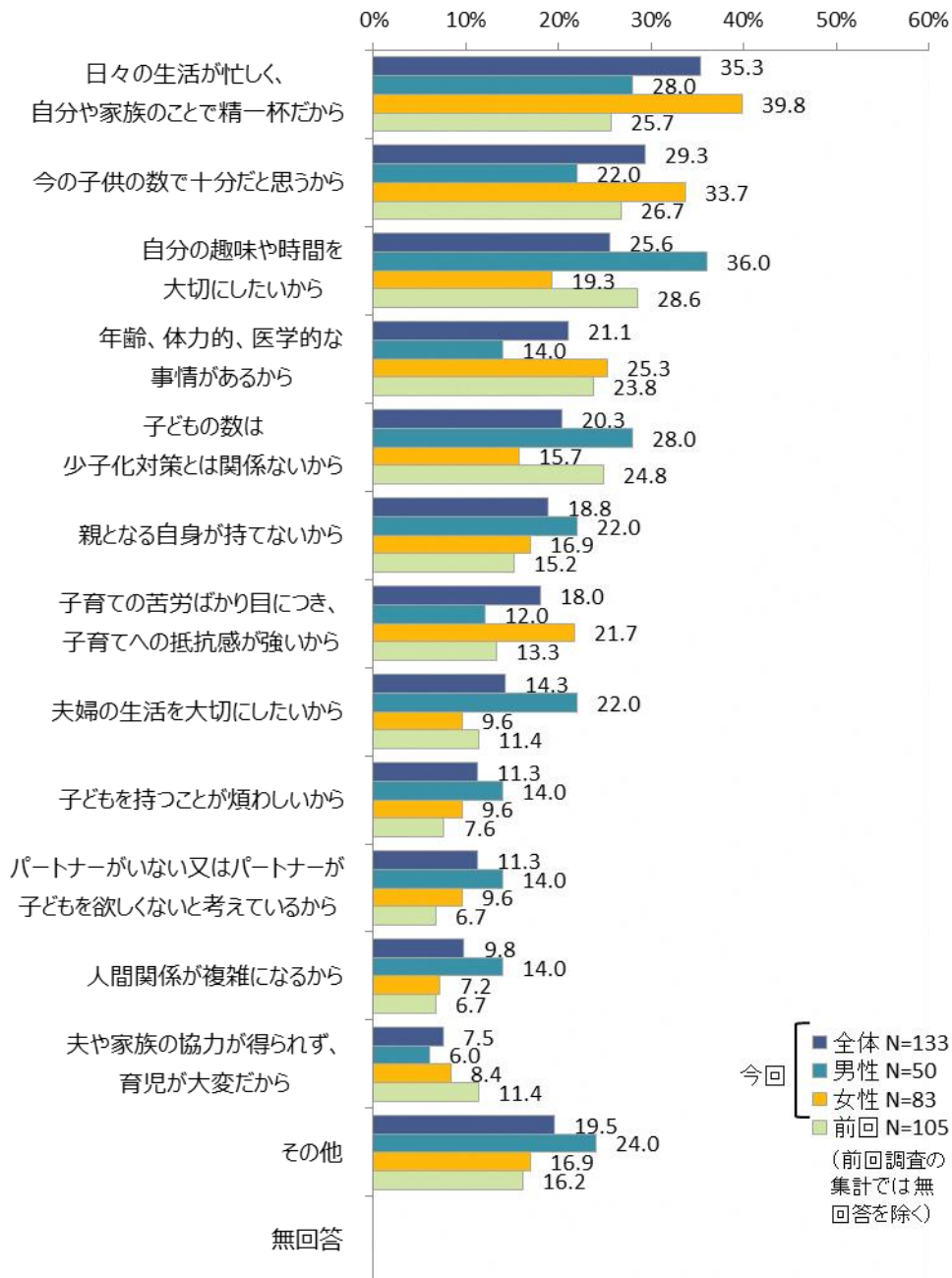


問 21 少子化対策を拡充しても、そのような気持ちにならないと思う理由

(問 20 で「3. どちらかといえばそう思わない」か「4. そうは思わない」を選んだ人：複数回答)

全体では、「日々の生活が忙しく、自分や家族のことで精一杯だから」の 35.3%が最も高く、特に女性では 39.8%と最も高くなっている。次いで「今の子どもの数で十分だと思うから」が 29.3%、続く「自分の趣味や時間を大切にしたいから」は 25.6%で、特に男性では 36.0%と最も高くなっている。そのほか、「夫婦の生活を大切にしたいから」(男性：22.0%、女性 9.6%)、「今の子どもの数で十分と思うから」(男性：22.0%女性：33.7%)、「年齢、体力的、医学的な事情があるから」(男性：14.0%、女性：25.3%) の項目でも男女間の差がみられた。

前回調査で最も高かった「自分の趣味や時間を大切にしたいから」(28.6%) は 3 位に順位を下げている。

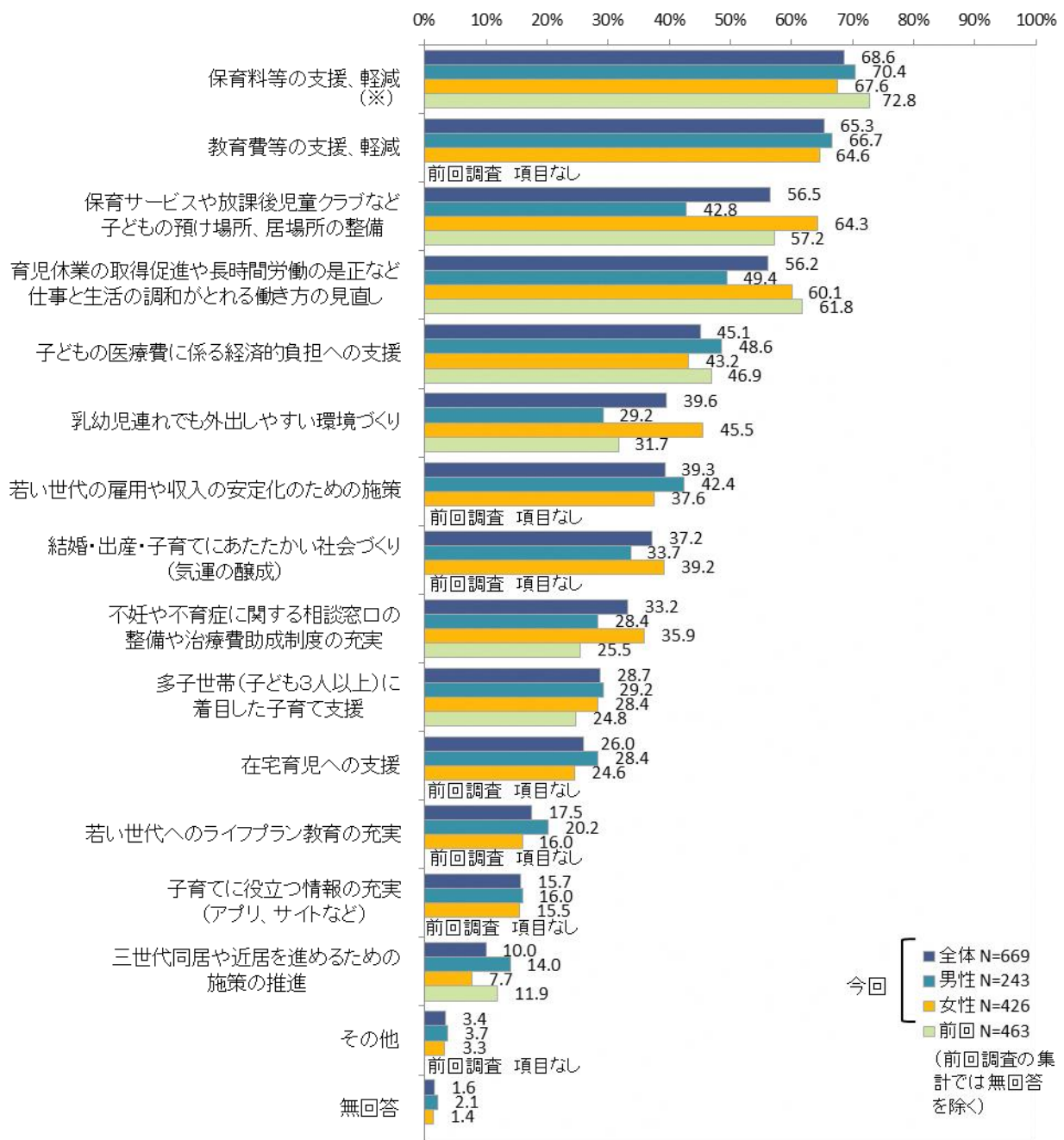




問 22 行政が、結婚・出産・少子化対策に取り組む上で、拡充すべき施策（複数回答）

全体では「保育料等の支援、軽減」が 68.6%と最も高く、次いで「教育費等の支援、軽減」が 65.3%、「保育サービスや放課後児童クラブなど子どもの預け場所、居場所の整備」が 56.5%となっている。

性別で比較すると、「保育サービスや放課後児童クラブなど子どもの預け場所、居場所の整備」（男性：42.8%、女性：64.3%）、「乳幼児連れでも外出しやすい環境づくり」（男性：29.2%、女性：45.5%）の項目で女性が男性を大きく上回っている。そのほか、「育児休業の取得促進や長時間労働の是正など仕事と生活の調和がとれる働き方の見直し」（男性 49.4%、女性 60.1%）でも差がみられた。



(※) 前回調査の選択肢では、「保育料・教育費等の支援、軽減」となっている。